

黒毛和牛一頭切り
伊達哉



黒毛和牛一頭切り伊達哉(だてなり) 其の壺

東日本大震災からの復活の道のり。 「伊達な昇り龍」誕生秘話。

私達は、東北復興の為
お客様、仲間達の
明日の希望を造る為
「食の感動」「サービスの感動」
「空間の感動」も提供し
東北復興の一員として
今日という帰れない一日を
全力で努めます。

当店の震災復興经营理念

東日本大震災の被害に直面して

当店「伊達哉(だてなり)」は、オープンから3年を迎え、お陰様で仙台はもちろんのこと、全国各地から観光でいらっしゃるお客様に愛され順調に営業しておりました。

しかし、2011年3月11日。私達のお店も東日本大震災の影響を余儀なく受けました。天井からはエアコンやダクト・電球が落下し、宙ぶらりんの状態。キッチンやバックヤードは、冷蔵庫からは食材が全て投げ出され、酒瓶やグラス・食器類は床に叩き落とされ割れ、足の踏み場もなく汚れ見るも無残な状況でした。

その後も治まらない大きな余震、回復も見込めないライフライン。東北全体が明日の希望を失いかけていた時期。そんな中でも、従業員が一丸となって「お客様の笑顔のため」復興への一歩を踏み出す覚悟を決め動き出しました。

33日ぶりの営業再開。東北復興に捧げる想い

忘れもしない、2011年4月14日。私達、伊達哉スタッフは東北復興を心に捧げ、33日ぶりに営業を再開することが出来ました。

全国各地からいらっしゃる支援・ボランティアのお客様には、励ましの言葉たくさん頂きました。

龍の如く天高く飛翔し、仙台・東北における復興のシンボルに

「宮城の食材にこだわりご提供する」というテーマを持った伊達哉。

宮城県内の取引業者様は100社以上。私達が、宮城の復興に少しでも役立てればという思い。そして何よりも、仙台に元気と勇気を、支援に頂いた方々に感謝を…。

そんな思いから、2011年6月に誕生した牛タンが「伊達な昇り龍」でした。

この名前には、かつて伊達政宗公が「独眼竜」「奥州の龍」と呼ばれていた史実と、この伊達の街が龍のように飛翔・飛躍し、再び元の賑わいと元気が戻ってくるようにという、私達の願いが込められています。

仙台の名物である牛タンの「サガリ」という希少部位を使用し、職人が一つひとつ丁寧に包丁を入れていくことで、天高く長い(全長100cm超)龍のような姿を現します。

店舗での提供が始まると同時に、宮城県内・県外問わず数多くのお客様に召し上がっていただき、早くも伊達哉のシンボルとなる逸品となりました。

今回のインターネット販売も、「全国の方々にもっと気軽に伊達哉の名物を味わって頂きたい」「私達の思いが詰まった商品を全国の方々に楽しんでもらい、元気を与えられる商品としてご提供したい」そんな思いから、試行錯誤で始めました。お陰様で、全国各地から数多くのご注文やお問い合わせを頂いております。

今後も皆様にもっと、もっと、喜んで頂ける商品をご提供して参る所存です。これをご縁に「黒毛和牛一頭切り伊達哉 其の壺」を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

